

第3学年 道徳指導案

指導者 横手市立栄小学校 細谷 隆尚
交流校担当 大曲市立東大曲小学校 鈴木 茂
支援者 秋田県総合教育センター 中川 一志

1 ねらい

- 自分の中にある「思いやり」の心に気付き、身の回りの人に親切な行いを実践して
いこうとする意欲を育てる。

2 主題「だれかのために」

資料名「ハンカチのぬくもり」 関連する主な内容項目2 (2) 思いやり・親切

3 主題設定の理由

○ 価値について

相手を思いやる気持ちや、困っている人を助けたいと願う気持ちはだれにでもある。
人に親切にして感謝されると、心がほわっと温かくなるし、親切な行いを目にするだけ
でも人は感動するものである。

ところが一方では、人に親切にしようとしてためらって結局しないでしまうこともま
まある。「恥ずかしい」「知らない(関わりが薄い)人とは関わりたくない」という気持
ちもまたもっている。

思いやりの気持ちを行動に表すことが、意外に難しい。思いやる優しさの他に、誰か
に関わろうとする気持ちや、一歩踏み出せる勇気もまた必要である。

相手を思いやること、そしてそれを親切な行いとしてかたちに表すことは、豊かな人
間関係を築く上で欠かせないことである。自分の内にある思いやりや優しさを主体的に
表していけるよう働きかけていきたい。

○ 児童について

クラス替えのない学級だが、以前にくらべ友だちとの関わりが広く、深くなってきて
いる。それに伴い、休み時間には仲のよい友だちと元気に駆け回る姿が見られる。また
祖父母と暮らしている子どもが多いので、身近なお年寄りに対しては親切にするなど、
心優しい子どもが多い。

しかし、仲のよい友だちとそうでない友だちとの間に、接し方の差があるようだ。ま
た求めずとも与えられることが多い環境のせいか、親切な行いを受けても何も言わない
子どもが多かった。そこで年度当初から、誰にでも「ありがとう」と言える子どもを育
てようと努めてきた。その結果、友だちや普段関わりのある大人に対し、自然に「あり
がとう」といえる子どもが増えてきている。それに伴い、友だちや身の回りの人に対し
て親切にできる子どももまた増えてきているが、ふだんの生活で関わりの薄い人に対し
ては、自分から関わっていけない子どもがまだまだ多い。

誰かに親切な行いをして「ありがとう」と言われ、心が温かくなった経験は誰もがも
っているはずである。逆に、親切な行いをしたのに、あまり感謝されなかったり、気ま
ずい思いをしたりした経験もある。そのためか、思いやりのある行動について躊躇して
いる子どもや、恥ずかしいと感じている子ども、また「誰かがやるだろう」と考え結局
しないでしまう子どもも少なくない。

また一方では、親切な行いを「誰かに見てもらいたくて」行う子どもの姿もある。

子どもたち一人一人が、自分の中にある思いやりの気持ちに気付き、自分の思いやり
の気持ちを素直に行動で表現できるよう、また相手の身になって親切な行いをすること
で心が温まる瞬間を感じられるよう、育てていきたいと考えている。

○資料について

橋本隆の作品による。文溪堂「3年生のどうとく」からの出典である。

友子は犬の散歩中、立ち往生している車椅子のおじいさんに出会うが、そのまま素通りしてしまう。後日慰問に訪れた老人医療センターでそのおじいさんと再会し、声をかけようかまよっているうちに、自分が落としたハンカチをおじいさんに拾ってもらう。体が不自由なのに脂汗を流しながらハンカチを拾う姿に、友子はショックを受ける。友子が、おじいさんに対する思いやりの気持ちをもちながらも、それをためらう姿が描かれている。

友子は「はずかしい」「他の用事もある」「誰かがやってくれるだろう」という理由から、立ち往生しているおじいさんに何もせず立ち去る。このような状況、その時の友子の心情は、きっと子どもたちにも覚えがあるのではないだろうか。さらに、友子のハンカチを一生懸命拾おうとしているおじいさんの姿を見たときの友子のショックは、子どもたちにも伝わりやすいと考えられる。

おじいさんを助けたいという気持ちをもちながらも行動に移せなかった友子と、脂汗を流しながらハンカチを拾おうとしているおじいさんを通して、思いやりのある行いの難しさと、温かさを考えるために有効な資料である。

○指導にあたって

親切にした体験の頻度や、相手を思いやる気持ちの自己認識は子ども一人ひとり違うと考えられる。この授業では思いやる気持ちを教えるのではなく、子ども一人ひとりの思いを引き出したいと考えている。同時に子ども一人ひとりが他の意見に真剣に耳を傾け、なるほどと思えるような時間にしたい。また友子への共感を高めるため、子どもの自然な感情を引き出しながら授業を進めていきたい。そのためにはまず教師が共感的な態度で授業に臨むのが大切と考えている。

また、この資料は3年生にとって長いので、事前に前半部分を前渡ししておきたい。その際、親切にしようとしたけれどできなかった経験を思い起こさせ、取り上げる価値について事前に考えさせておく。後半部分は後渡しとし、友子がショックを受けたときの気持ちについて深く考えさせたい。

また友子になりきっておじいさんに手紙を書く活動を通し、友子のためらいを自分と照らし合わせ、自分自身の思いやりの気持ちや態度を振り返る機会にしたい。

さらにこの学習では、本校と同様単級の東大曲小学校の3年生と、インターネットテレビシステムを使って一緒に学習する。栄小担当が主に発問をし進めていくが、東大曲小担当と十分に連携を図り、両校の子どもたちが互いに共感したり意見を共有したりできるようにしたい。これにより意見の広がりや、発言の活性化が期待できると考えられる。

また資料で語られている状況や友子の気持ちなどをとらえやすくするため、総合教育センターから絵と音声で効果的に資料を提示する。これは両校の授業を同調させ、一体感を高めるためにも有効であると思われる。

授業後には「心のノート」を活用しながら、相手の身になって思いやる態度を育てていきたいと考えている。

4 授業の実際

事前の準備： ・親切にしようとしてできなかったことはないか考え、シートに記入しておく。 ・資料(1)を前渡ししておく			
本時 (60)	学習活動（○主な発問 ・予想される児童の反応）	指導上の留意点	センター指導主事の支援 東大曲小との交流
導入 (5)	1. 親切にできなかった体験を発表する。 ○親切にしようとしたんだけどできなかったことってないかな？ ・お母さんを手伝おうと思ったんだけど... ・雪寄せを手伝おうとしたんだけど...	・本時の主題について確かめる。 ・共感を学級に広げていくような聞き方に努める。	・東大曲小からも発表する。
展開 (5)	2. 資料(1)を読む。	・センターからの話に合わせ各場面の絵を黒板に貼っていく。	・センターから資料(1)を効果的に提示する。
(10)	3. 資料(1)の友子さんの気持ちについて考える。 ○角を曲がったとき、友子さんはどんなことを考えたでしょうか。 ・手を貸そうか。でも散歩中だし....。 ・他の人が助けてくれる。 ・おじいさんごめんね。 ○おじいさんの横を通り過ぎようとしたとき、友子はどんなことを考えていたでしょうか。 ・この前のことが気になっている。 ・知らないふりをしようとしたんだけど....。 ・怒られると思っている。 ・この前は仕方なかった。	・友子の迷いに気付けたい。 ・友子の葛藤に共感させるような聞き方に努める。（おぼえあるよね、等） ・自分の中にも思いやりの気持ちがあることを押さえておく。	・東大曲小と交流開始。栄小からの発問に対して双方から意見発表。 ・自校の意見も他校の意見も板書し、意見を共有する。
	4. 資料(2)を読む。	・資料(2)の各場面の絵を黒板に貼る。	・センターから資料(2)を提示する。
(3)	5. 資料(2)の友子さんの気持ちについて考える。 ○おじいさんの姿を見たとき、友子はどんな気持ちになったでしょうか。 ・自分はできなかったのに、おじいさんは当たり前のようにやろうとしていてすごいと思った。 ・友子さんはうれしくなったと思う。 ・友子さんはお礼を言いたくなった。 ・心があたたかくなった。	・今までの友子との違いに気付かせるため、表情に着目させたい。 ・おじいさんの行動に着目させるとともに、おじいさんの気持ちも想像させたい。	・東大曲小と交流再開する。
(12)	それはどうして？ ・自分はやろうとしてやらなかったのに、おじいさんは苦労しながら親切なことをしてくれたから。 ・おじいさんは友子のことを考えている。 ・友子は自分のことばかり考えていた。 ・おじいさんはありがとうって言われたくてやったんじゃない。		
(15)	6. 友子さんの手紙を書き、発表する。 ○友子さんになったつもりでおじいさんに手紙を書いてみましょう。 ・ハンカチを拾ってくれてありがとう。 ・おじいさんがして下さった事は忘れません。 ・思いやりのある行動は難しくないんだということが分かりました。 ・これからはおじいさんのように、思ったことを当たり前でできるようになりたいです。	・資料(3)手紙(白紙)をわたす。 ・机間巡視を行い、書けずにいる子どもに話しかけ、言葉を引き出したい。	・各自書き始める。 ・東大曲小からも発表。
終末 (5)	7. 思いやりについてのお話を聞く。 ・思いやりって、難しくないんだ。 ・自分もがんばってみよう。		・センターから、思いやりに関連した話をする。